

開催館名 刈谷市歴史博物館

企画展名 「海の縄文 山の縄文—自然と共生した豊かなくらし—

開催期間：2025年10月4日（土）～2025年11月16日（日）



展示室の様子



ギャラリートークの様子



貝輪作り体験の様子



講演会「つながる縄文」の様子

【企画展の内容・目的】

- 刈谷市周辺は愛知県内でも縄文貝塚が多く、古くから海産資源の利用が盛んに行われていた 地域である。ただ、現在も当市は衣浦湾に面しているものの、人々が普段の生活で海とのつながりを感じることは少ない。そこで本企画展では、刈谷市や三河湾沿岸部の縄文遺跡と中部高地など山間部の縄文遺跡の資料を一堂に展示し、両地域における暮らし等について対比的に紹介する中で、人々が太古の昔から豊かな海に支えられていたことを伝えるとともに、観覧者が海を身近に感じ、海や自然の環境を守る大切さについて考えるきっかけを提供した。
- 刈谷市の遺跡でも出土している貝輪を作る体験イベントを行い、刈谷市と渥美半島のつながりや海産資源の利用について参加者の理解を促した。
- 展覧会を企画した学芸員による展示説明会や、縄文時代の専門家による展示テーマに沿った講演会を開催することで、企画展の内容に対する聴講者の理解を深めた。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2025年10月4日（土）～2025年11月16日（日）

■開催場所：刈谷市歴史博物館 2階 企画展示室

■入場者数：2,900人



刈谷市歴史博物館 外観



企画展会場 入口



第1章「縄文のはじまり」



パネル（年表と海水準の変動）

第1章「縄文のはじまり」では、縄文時代の始まりは氷河期の終わり頃にあたり、寒冷な気候のため海水面が現在より80mも低く、伊勢湾や三河湾もなく、刈谷市のある場所からは「海」がとても遠かったことをパネルで紹介した。

また、そのような厳しい自然環境の中でも、当時の人々はすぐれた道具を作り、狩猟や採集によって食料を手に入れて暮らしていたことについて、国重要文化財「神子柴遺跡出土品」をはじめとする長野県や愛知県の旧石器時代末～縄文時代草創期の遺跡で出土した石器や縄文土器を展示して解説した。

自然環境の変化によって、今でこそ身近な海が大きく変化してきたことを学び、海や自然環境を大切にすることへの理解を深める機会を提供した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第2章「海の縄文」



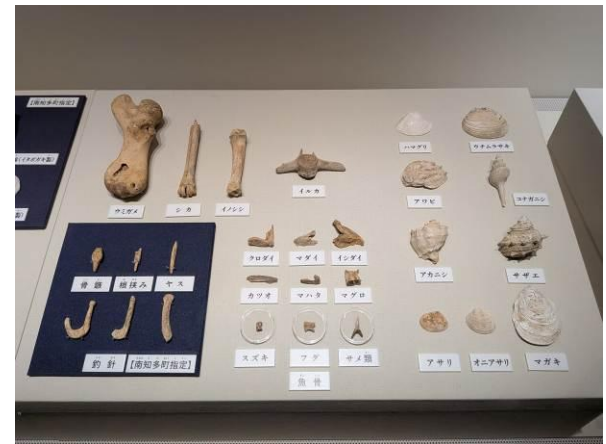
「縄文海進と海への適応」

第2章「海の縄文」の「縄文海進と海への適応」では、氷河期が終わり、それまでの寒冷で海が遠かった時期から、気候の温暖化に伴って海水面が上昇した「縄文海進」によって日本の各地で海が陸地に入り込み、縄文時代の人々の漁労活動が盛んになったことを、愛知県内の貝塚の出土品やパネルで紹介した。

縄文海進のピークにあたる縄文早期後葉（約7000年前）には、刈谷市のある衣浦湾周辺では海水面が現在より2～3m高かったことや、この頃に刈谷市で最古の縄文貝塚が登場すること、知多半島には、現在の海面より10mも低い地層から、縄文海進によって水没した古い時期の貝塚（南知多町先刈貝塚）が発見されていることを紹介した。



「貝塚からみえる海辺の暮らし」



展示資料（神明社貝塚出土品）

同章「貝塚からみえる海辺の暮らし」では、衣浦湾を含む三河湾の沿岸部には、その後も多くの縄文貝塚が残されていることから、狩猟・採集に加え、海での漁労や干潟での採貝が当時の人々の暮らし中で主要な活動になったことや、縄文後期～晩期にはこの地域が日本でも有数の貝塚分布地域になったことを紹介した。

西尾市八王子貝塚や南知多町神明社貝塚など、県内各地の貝塚から出土した縄文土器や石器、骨角器などの道具とともに、人々が食べた動物の骨や魚の骨、貝殻を展示することで、当時の海の様子や漁労活動の違い（内湾性・外洋性）について紹介し、豊かな海産資源の存在とそれを得るための人々の工夫について解説した。



「貝塚と墓」



コラム「縄文人の食性」

また、「貝塚と墓」を取り上げ、刈谷市の本刈谷貝塚をはじめとする縄文晩期の三河湾沿岸部の貝塚には、「盤状集骨墓」という全国的にみてもこの地域に特有の墓が存在し、埋葬に関して一つの文化圏が形成されていたことを紹介した。

コラムとして、埋葬人骨の自然科学分析からわかる「縄文人の食性」についてパネルで紹介し、沿岸部と山間部の人々の食べ物の違いについて解説した。



「海の特産品—貝輪—」



「干し貝作り」

同章「海の特産品—貝輪—」や「干し貝作り」では、人々が海産物から特産品を生み出し、他の地域との交易を盛んに行っていたことを紹介した。

縄文晩期の渥美半島の貝塚では、太平洋側の海岸に打ち上げられる貝殻を素材にした腕輪（貝輪）を大量に製作していたことや、豊川河口の牟呂貝塚群では、ハマグリを大量に採取して干し貝を作っていたと考えられていることを、出土品やパネルで解説した。

そこには地域資源としての海産物を人々が技術や労力を集中させて価値のある特産品に昇華させ、周辺地域や遠隔地との交易によって地域同士つながりをもつことを大切にしていた社会が垣間見え、当時の人々にとって「海」がそれを支えるかけがえのない存在であったことを観覧者が理解して学ぶ機会を提供した。



第4章「つながる縄文」



展示資料（オオツタノハ製貝輪ほか）

第4章「つながる縄文」でも、沿岸部の地域の人々と山間部の地域の人々との交流を示すさまざまな資料を展示した。とくに伊豆諸島南部や南西諸島でしかとれないオオツタノハという貝で作られた貝輪が、大変貴重な交易品としてはるばる海を渡って渥美半島や刈谷にもたらされており、大海原に向き合った当時の人々の価値観や世界観にふれてもらう機会を提供した。

本企画展では、この地域が縄文時代を通じてさまざまな「海の恵み」を享受してくらしてきた、海との関わりの深い地域であったことを、展示した出土資料や解説を通して観覧者に知ってもらうことで、現在の海の環境や海産資源についても関心を持ち、より親しみを持ってもらう機会になったのではないかなと思う。

【来館者の声】

- 貝を干して保存したり、貝がらのアクセサリーを作ったりして、特産品がこんな昔からあり、今も続いていることが素晴らしい
- いろいろな貝をこれからも食べていけるように、貝の住める海を残していけると良いと思いました
- 氷河期の海は80mも低かったなんてびっくり。具体的に地形、地図がのっていてわかりやすかったです
- 縄文時代のことが詳しく知ることができた

2. 関連事業の内容

■関連事業名①出前講座「高津波・小山地区の縄文遺跡について」

【開催日時】2025年8月27日（火）9：30～10：30

【開催場所】刈谷市中央図書館

【参加者数】23人

【実施内容・目的】

- 関連事業である「史跡めぐり」でガイドを務める刈谷ふるさとガイドボランティアの貝の会員に対し、刈谷市内の縄文貝塚についての事前講座を行い、当時の海と刈谷の繋がり等を紹介した。
- 市内の縄文貝塚から分かることを通して、豊かな海を活かした当時の刈谷市内の人々の暮らしについて詳しく学ぶ機会を提供する。



出前講座の様子



出前講座の様子

衣浦湾の奥に位置する刈谷市では縄文時代の貝塚が多く見つかっており、とくに市内を西流する逢妻川沿いの小山町や高津波町には縄文時代の貝塚が点在すること、貝はハイガイやマガキ、アサリやハマグリなどで構成され、内湾の干潟で盛んに貝を採って食べていたことを紹介した。

【来館者の声】

- 自分が小さいころ、衣浦湾などでアサリや牡蠣が採れていた。採った貝を食べていた
- 海の資源についてよく知ることができた
- 縄文時代は海が直結していたことが分かった

■関連事業名②展示説明会

【開催日時】2025年10月4日（土）14:00～15:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室

【参加者数】35人

【実施内容・目的】

- 参加者が企画展示をより深く理解し、興味を深め、観覧することができるように、当館学芸員がスライドを用いて展示の解説を行った。
- 縄文時代の刈谷周辺の衣浦湾・三河湾沿岸部の暮らしや、三河山間部や中部高地の暮らしについて詳しく紹介した。



展示説明会の様子



展示説明会の様子

刈谷市内では縄文時代の貝塚が多く見つかっており、古くから人々が海産資源を利用して暮らしていたこと、その貝塚から見つかった遺物には遠い山で採れる石から作られた石器や刈谷周辺では採れない種類の貝から作られた貝輪もあり、人々が遠く離れた海や山と交流していたことを紹介した。

縄文時代の海と山の恵みを生かしたそれぞれの生活を、関連資料をふまえてより深く掘り下げて解説したことで、沿岸部での生活の特徴と海との関わり、当時の海の様子をより具体的に理解する機会を提供することができた。

【来館者の声】

- 縄文時代の長い間にわたって採れている貝にあまり変化がなく、人々は長きにわたってそれを享受してきていることがわかった
- 石器時代、縄文時代から人々は海で魚や貝を採って生活していたことが分かった
- 魚の骨や貝を工夫して道具や装飾品を作っていたことが分かった

■関連事業名③バックヤードツアーと土偶づくり体験

【開催日時】2025年10月5日（日）10：00～11：30

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室・バックヤード

【参加者数】20人

【実施内容・目的】

- イベント参加者に対し、刈谷市内の縄文貝塚についての講座を行い、当時の海と刈谷の繋がり等を紹介した。
- 市内の縄文貝塚から分かることを通して、豊かな海を活かした当時の刈谷市内の人々の暮らしについて詳しく学ぶ機会を提供した。また、山ともつながりがあり、貝塚から出土している土偶について学んだあと、土偶作りを行い、当時の技術について学ぶ機会を提供した。



バックヤードツアーの様子



土偶作り体験の様子

普段はみられない博物館の裏側を見学することで、博物館の活動について学んだ後、縄文時代の土偶について学芸員が解説した。刈谷市内の縄文時代の貝塚からは当時の土偶が見つかっており、海や山の自然の中でくらす縄文時代の人々が、豊穡や子孫繁栄を祈るまつりを行っていたことを紹介した。

【来館者の声】

- 刈谷市の知らなかった一面をみることでよかったです
- なかなか体験できないことを子どもも大人も体験できてたのしかったです
- 貝と一緒に埋めたので、骨の状態がよく残っているというのが面白かった

■関連事業名④ギャラリートーク

【開催日時】2025年10月9日（木）、10月18日（土）、
11月15日（土） いずれも11:00～12:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館 企画展示室

【参加者数】18名、21名、25名

【実施内容・目的】

- 参加者が企画展示をより深く理解し、興味を深め、観覧することができるように、当館学芸員が展示室内で展示資料を前にして展示の解説を行った。
- 縄文時代の刈谷周辺の衣浦湾・三河湾沿岸部の暮らしや、三河山間部や中部高地の暮らしについて詳しく紹介した。



ギャラリートークの様子



ギャラリートークの様子

刈谷市内では縄文時代の貝塚が多く見つかっており、古くから人々が海産資源を利用して暮らしていたこと、その貝塚から見つかった遺物には遠い山で採れる石から作られた石器や刈谷周辺では採れない種類の貝から作られた貝輪もあり、人々が遠く離れた海や山と交流していたことを、展示品を見ながら学芸員が紹介した。

展示品を通して、縄文時代の海と山の恵みを生かしたそれぞれの暮らしを解説し、沿岸部での生活の特徴と海との関わり、当時の海の様子をより具体的に理解する機会を提供することができた。

【来館者の声】

- 縄文時代の人々がこんなにたくさんの種類の貝や魚をとって食べていたことに驚いた
- 打ち上げられた貝殻でブレスレットを作って交易していたとは知らなかった
- 海水面の変動は大昔からあっても自然に合わせた生活をしていることがわかった

■関連事業名⑤史跡めぐり

【開催日時】 2025年10月11日（土） 8:15 ~ 12:30

【開催場所】 刈谷市高津波地区・小山地区

【参加者数】 44名

【実施内容・目的】

- ふるさとガイドボランティアの会がガイドとなり、刈谷市内で多く見つけている貝塚をめぐった。古来人びとがこの地に住み、海産物をどのように獲得してきたのかを、現地で実際の出土品を見て学んだ。
- 刈谷市内の遺跡や寺社を訪ねることで、刈谷市の歴史文化及び文化財への興味関心を高めた。



史跡めぐりの様子



史跡めぐりの様子

刈谷市の高津波・小山地区にある史跡（寺社及び貝塚などの縄文遺跡）をめぐり、歴史文化や文化財への理解を促した。

特に、中手山貝塚（中手山神明社境内）では、貝塚の出土品（漁具や貝輪）を見ながら縄文時代の人々がどのように海と関わっていたかの学びを促した。

【来館者の声】

- 海は生活と密接しているのだと思った
- 貝塚がたくさんあり、多くの人が暮らしていたことを想像できて楽しかった
- 自分の足元がかつては海であったり、海の側であることを身近に感じた

■関連事業名⑥貝輪作り体験

【開催日時】2025年10月11日（土） 14:00～16:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館

【参加者数】3組（6名）

【実施内容・目的】

- 田原市博物館の学芸員が講師となり、イベント参加者に対し、刈谷市内の縄文貝塚についての説明を行い、当時の海と刈谷の繋がり等を紹介した。
- 刈谷市内の縄文貝塚から分かることを通して、豊かな海を活かした当時の人々の暮らしについて詳しく学ぶ機会を提供した。また、貝塚から出土している貝輪について学んだあと、実際に貝輪作りを行い、当時の技術について学ぶ機会を提供した。



貝輪作り体験の様子



貝輪作り体験の様子

田原市博物館から専門家を招き、縄文時代の渥美半島で大量に製作された貝輪についての解説や製作体験を通して、縄文時代の刈谷と渥美半島とのつながり、海産資源の利用についての理解を促した。

【来館者の声】

- 刈谷の歴史や周囲との交易についてなど、いろいろな点について興味を持てる内容でした
- 今まで見た貝より大きい貝で、子供達もびっくりして楽しんで貝輪作りに参加していました
- 海は色々な物を与えてくれるとわかりました

■関連事業名⑦講演会「海の縄文～貝塚からみえるヒトの暮らし～」

【開催日時】2025年10月13日（月・祝） 13:30～15:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室

【参加者数】47名

【実施内容・目的】

- 外部講師が、縄文時代の刈谷および三河湾周辺の海産資源を活用した暮らしと全国有数の貝塚地帯となった三河の貝塚の特徴について詳しく説明した。
- 当時の海の様子や、人々がどのように海の生き物と関わり、それらを活用していたかを紹介した。



講演会の様子



講演会の様子

専門家を招き、貝塚の出土品等から分かる当時の暮らしを紹介することで、参加者は、企画展示をより深く理解し、興味を深めることができた。

当時の海と人々の生活をイメージすることで、海を身近に感じ、今も変わらず身近にある海が太古の時代より人々に多大な恩恵を与えていることに気づくきっかけを与えることができた。

【来館者の声】

- 貝塚について深く学ぶ事ができた。東海、愛知の貝塚の概要がわかって有意義だった
- 興味のあったオオツタノハ製の貝輪について話が聞けてよかった
- 貝塚とは何かという総論から、刈谷地域の貝塚の特徴まで、盛り沢山の内容で興味深く拝聴できた

■関連事業名⑧さかなかるたで遊ぼう！

【開催日時】2025年10月18日（土） 10:00～11:00
／14:00～15:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室

【参加者数】9名

【実施内容・目的】

- 小学生と対象としたイベント参加者に対し、「縄文クイズ」を実施する。その際、縄文時代の漁労の様子や食生活について触れ、縄文人と海のかかわりについて学んだ。
- さかなかるたを楽しむ中で、魚の特徴やその生態について興味関心を高めた。そのために、かるたをとった子にその魚の紹介をしてもらうなどの工夫をした。



縄文クイズの様子



さかなかるたの様子

縄文時代に関するクイズを通して、縄文時代の食生活やそれを支える漁労の方法などについて学習した。その中で、昔から海と人は大きな関わりがあったことを話した。

さかなかるた大会では、とるたびに魚の名前や取り札のうろこの感触を参加者みんなで共有しながら、楽しい雰囲気ゲームが進んだ。

【来館者の声】

- 魚にはいろいろな模様があって、自分の知らない魚について学ぶことができた
- 魚のうろこの形を学びました
- ウロコがさわれた

■関連事業名⑨講演会「ハヶ岳西南麓の縄文文化をはぐくんだ

黒曜石と国宝土偶」

【開催日時】2025年10月25日（土） 13:30～15:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室

【参加者数】69名

【実施内容・目的】

- 外部講師が、企画展の中で刈谷を含む三河湾周辺と対比的に紹介する縄文時代の中部高地や三河山間部の人々の暮らしについて、遺跡からの出土品などを紹介しながら詳しく説明した。
- 当時の山間部の様子や、人々がどのように山の資源と関わり、それらを活用していたかを紹介した。



講演会の様子



講演会の様子

専門家を招き、山間部の縄文遺跡の出土品等から分かる当時の暮らしを紹介することで、参加者は、企画展示をより理解し、興味を深めることができた。

海辺の暮らしとの対比として山辺の暮らしについて学ぶことで、縄文時代の沿岸部での暮らしの特徴がより理解しやすくなるとともに、森を介して共通する当時の暮らしについても理解を深めることができた。

【来館者の声】

- 黒曜石の流通が全国に広がるようすがよくわかった
- 新たな発見、情報が多く聞けて、為になりました
- 昔もこれからも海は重要と感じました

■関連事業名⑩石器の使用体験

【開催日時】 2025年11月2日（日） 10:00～11:00
14:00～15:00

【開催場所】 刈谷市歴史博物館

【参加者数】 17名

【実施内容・目的】

- 縄文時代に使われた石器や、市内の貝塚から出土した魚の骨などの解説を聞き、当時と同じ手法で作った石器を実際に使って、魚をさばく体験などを行った。
- 縄文人が魚や貝などの海産物をどのように手に入れ、どのように食べていたかについて体験する中で、豊かな海を活かした当時の人々の暮らしについて学ぶ機会を提供した。



石器の使用体験の様子



石器の使用体験の様子

縄文時代の人々が使っていた道具と同じものを使って魚をさばく体験などを行うことを通して、豊富な海産物を活用し、貝塚がたくさん作られた三河湾沿岸部の縄文人の生活に想いを馳せることができた。

【来館者の声】

- 縄文時代の体験ができて、当時の人の苦労が分かりました。そして今がどんなに便利かが学べました
- 黒曜石の切れ味がとても良くてびっくりしました。魚を切るのが楽しかったです
- 魚をさばく活動で、昔の人は大変だったんだなあと思いました

■ 関連事業名⑪子ども歴史体験講座「海のスノードームを作ろう」

【開催日時】2025年11月3日（月・祝）

10:00～11:30

14:00～15:30

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室

【参加者数】25名

【目標・内容】

- イベント参加者に対し、学芸員による企画展の子ども向けギャラリートークを実施し、縄文時代と海のかかわりについて紹介した。
- 海の生き物の飾り付けをした、海のスノードームを製作する。海にはどんな生き物がいるのか、想像を膨らませながら製作に取り組ませることで、海に親しみを感じてもらった。



子ども向けギャラリートークの様子



海のスノードーム作りの様子

学芸員による企画展の子ども向け解説では、魚の骨や貝輪など海に関連した出土品を紹介しながら、縄文時代と海のかかわりについて学習した。昔から海と人の関わりがあったことを理解できた。

スノードーム製作では、イルカやカニ、魚の形などに切り取ったセロハンをスノードームに飾り付け、海をイメージしたスノードームを完成させた。

【来館者の声】

- 海はくらししていく上でかかわりがある
- 海はとても大切に、守っていききたい
- 海の中にどんな生き物がいるか考えることができた

■ 関連事業名⑫講演会「つながる縄文～刈谷市の縄文遺跡と
他地域の遺跡の交流～」

【開催日時】2025年11月8日（土） 13:30～15:00

【開催場所】刈谷市歴史博物館 講座室

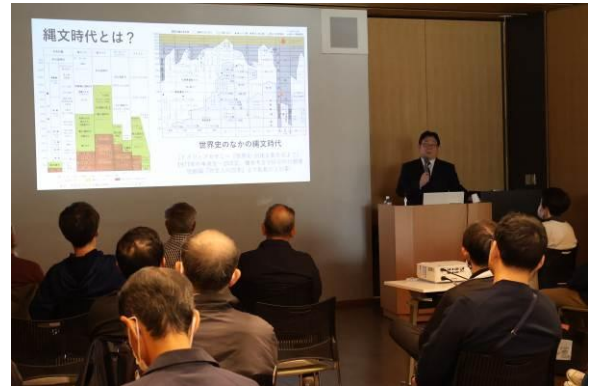
【参加者数】51名

【目標・内容】

- 外部講師が、刈谷の遺跡と三河湾周辺の遺跡や、三河山間部や中部高地との交流を示す資料を紹介しながら、縄文時代における交易や、そこからみえる地域どうしのつながりや交流の意義について展示資料や関連資料をもとに詳しく説明した。



講演会の様子



講演会の様子

専門家を招き、展示資料を中心に刈谷の縄文遺跡と他地域の遺跡との交流について紹介することで、参加者は、企画展示をより理解し、興味を深めることができた。

刈谷をはじめとする海辺の暮らしの中に山辺との交流があることや、遠方の海からもたらされた特産物の存在を学ぶことで、縄文時代の暮らしや社会の在り方の特徴をより深く理解するとともに、海を介したネットワークが広域に存在していた当時の社会についても理解を深めることができた。

【来館者の声】

- 縄文時代の人が生きていく上で他地域とのつながりを大切にしていたことが良くわかった
- 出土品をもとに当時の生活・社会を説明している点がおもしろかった
- 海がもたらす特産品と特産品をもとにした地域とのつながりを学んだ

■関連事業名⑬クイズラリー

【開催日時】2025年10月4日（土）～ 11月16日（日）

【開催場所】刈谷市歴史博物館 企画展示室

【参加者数】330名

【目標・内容】

●企画展の内容に合わせたクイズを5問出題する。その中には、縄文時代の人々が食べていた魚や身につけていた貝輪といった海に関するクイズも含まれている。クイズを通して、縄文時代と海の関わりについて理解を深めた。

●クイズラリーの全問正解者には、景品として海の縄文のイラストが入った缶バッジをプレゼントすることで、海に親しみを感じてもらった。



クイズラリーの様子



クイズラリーの様子

クイズラリー参加者は、クイズの全問正解を目指して、展示物を真剣に眺める姿が見られた。

【来館者の声】

- 当時から海が人々の暮らしを支えていたことが分かった
- 身近な海の資源を利用していたことが分かった
- 縄文時代の人は今と同じように魚や貝を食べていた

■ 関連事業名⑭海の生き物ペーパーキャップづくり

【開催日時】2025年10月4日（土）～ 11月16日（日）の土日祝

【開催場所】刈谷市歴史博物館 体験学習室

【参加者数】43名

【目標・内容】

- 土日祝開催の簡単工作において、企画展に合わせて、碧南海浜水族館オリジナルの海の生き物（クマノミ、サメの2種）のペーパーキャップづくりを行った。
- ペーパーキャップづくりを通して、海の生き物に親しみを感じてもらい、興味関心を高めた。



ペーパーキャップ作りの様子



ペーパーキャップ作りの様子



ペーパーキャップ作りの様子



ペーパーキャップ作りの様子

親子で楽しみながら、サメやクマノミのペーパーキャップを作る姿が見られた。「海の生き物が身近な存在になった」と親しみを感じる感想があった。

【来館者の声】

- 小さな生き物たちもくらしやすいようにゴミをすてないようにしたいです
- 海の生き物が身近な存在になってくれるといいなと思いました
- 現代の生活より縄文時代はもっと海が身近にあったんだなと思いました

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■ 関連事業名⑮海の縄文山の縄文 解説パネル展示

【開催日時】2025年10月4日（土）～ 11月16日（日）

【開催場所】刈谷市歴史博物館 エントランス

【参加者数】

【目標・内容】

- 縄文時代の人々が食べ、利用していたと考えられる海の貝や魚、山の動物や堅果類、石材等に関する解説パネルを展示した。



解説パネル展示の様子



解説パネル展示の様子

縄文時代に海や山に存在した生物、植物について、今も生息しているもの、いないものを知ることで、見学者が自然の豊かさや環境の変化について学ぶきっかけにすることができた。

自然に対する敬愛の念を醸成し、人々も海や山の自然と共存し、環境を守ることの大切さを改めて知ってもらうことができた。

【来館者の声】

- 豊かな恵みについて学びました
- 山との対比がわかるのがよかった
- いろいろな貝をこれからも食べていけるように貝のすめる海を残していけるとよいと思いました

【事業全体のまとめ】

サポート事業を活用したことで、刈谷の縄文時代や海とのつながりを知ってもらう充実した展示が行えた。さらに普段より多くのイベントに取り組むことができ、3回の講演会の開催や、石器の使用体験、貝輪づくりなど、体験を通じた縄文時代の学びが提供できた。また、他館との連携では、全国的に縄文貝塚で有名な田原市の博物館が同時期に開催した「渥美半島の貝塚展」のチケットの相互割引や貝輪づくりの講師派遣など、有意義な交流が行えたほか、今まで連携の実績がなかった碧南海浜水族館とも工作キットの提供と相互割引の実績ができ、各館で来館者の回遊性も高め、海の学びに通じる活動も行うことができた。

来館者の声として、太古から海の資源を人類が活用してきたこと、海の産物が遠い山の村にも届けられ、文化の交流がされていたことが分かった、海があって舟での交通の大切さや食料の調達等、海を利用して生きているのが良く理解できた等が挙がっており、企画の主旨とともに海の大切さを伝える成果を得られたと思う。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 刈谷市美術館	相互割・本展の観覧券（半券可）の提示で当日券 200 円引き
2. 田原市博物館	相互割・展の観覧券（半券可）の提示で 100 円引き、 小人は同伴の大人の半券提示で 50 円引き
3. 碧南海浜水族館	相互割・展の観覧券（半券可）の提示で 100 円引き、 小人は同伴の大人の半券提示で 50 円引き

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. JR 駅貼り（豊橋駅）	9/29～10/5
2. JR 駅貼り（金山駅）	9/29～10/5
3. JR A 額面（名古屋セット）	10/2～10/15
4. 中日新聞	中部新時代 9/25
5. 中日新聞	秋のおでかけ：・見どころ情報最前線 10/4

以上